

Lexicon 224

クラシックデジタルリバーブ

1978年にオーディオ業界に解き放たれた時から、立体感のある、そしてスライダーでの操作を行うコントローラーにより豊かなリバーブテールを持つ Lexicon224Digital Reverb は全ての時代で愛用されてきました。Talking Heads「Remain In Light」、Grandmaster Flash & The Furious Five「The Message」、Vangelis の手がけた伝説のサウンドトラック「Blade Runner」、U2「焰～Unforgettable Fire」や Peter Gabriel「So」等、メジャーアーティストのアルバムに欠かせない音となりました。

オリジナルのハードウェアと全く同じアルゴリズムとコントロールプロセッサークードを使用した結果、UAD-2 Lexicon 224 は全 8 種のリバーブプログラムとコーラスプログラムを正確に再現しました。Lexicon224 の見つけることが難しかった最終ファームウェアバージョン 4.4 を元にしてあります。また、UA の徹底的なモデリングの伝統で Lexicon 224 プラグインは、全体のアナログとデジタルシグナルパスの非常に詳細な部分をもキャプチャーするためにオリジナルのインプットトランスフォーマーと初期の AD/DA12ビットゲインステッピングコンバーターを採用しています。

さらに UAD-2 でエミュレートしている Lexicon224 は、ダイレクトインプットを特徴としており、有名な Lexicon224 ユーザーのプリセットを収録しています。: Chuck Zwicky (Prince, Jeff Beck), Eli Janney (Jet, Ryan Adams)、David Isaac (Eric Clapton、Luther Vandross)、E.T. Thorngren (Talking Heads, Bob Marley)、Kevin Killen (U2, Peter Gabriel).

ヒストリー

有名な物理学者で技術者の David Griesinger 博士によって開発された Lexicon 224 は、今までに作られたリバーブの中で最もスタジオに普及したベストセラーのデジタルリバーブです。オリジナルの 224 は、デジタルリバーブ史上で画期的な業績を残しました。世界中のあらゆるスタジオに導入され、どのコンソールの上にも Lexicon のリモコンが置かれるようになったのです。224 コンサートホール A プログラムは今まで作られたリバーブの中で最も素晴らしいプログラムの一つと考えられていました。そしてプレートプログラムは 80 年代のドラムマシンサウンドを築きました。

パラメーター

すべての調整可能なパラメーターと専用コントローラーがオリジナルと同じように Lexicon 224 プラグインにも配置され、簡単に操作出来るようになっています。すべての 7 アルゴリズム / 9 プログラムがプログラムセレクションで使用可能です。Lexicon 特有のバス/ミッド“スプリットディレイ”の調整とクロスオーバーコントロールは、調整可能なリバーブイメージを設定可能にします。デプスはソースとリバーブの間の見かけの距離を設定します。プリディレイはソースとリバーブが始まる間に短いディレイを作ります。ディフュージョンは、リバーブ、エコーの密度が時間と共にどれくらい増すかをコントロールします。

トータルオーセンティシティは、UAD-2 のみのシステムノイズコントロールでオリジナルの Lexicon 224 ハードウェアの固有のノイズをオン/オフします。具体的に無効化するシステムノイズは、モデリングされたゲインステップ、パラメータージッター、静的ノイズを取り除き、より近代的なクリーンなサウンドを実現します。モードエンハンスメントとディレイ最適化がコントロールする独特な Lexicon 224 は、リバーブの透明度を改善しています。インサートで使用するケースを考えると UAD-2 のみドライ/ウェットとソロパラメーターによってプラグイン内のエフェクトミックスのコントロールが可能です。

ディスプレイパネル右の「OPEN」テキストをクリックすると入出力ゲイン、ピッチシフトに加え、「Hall B」と「Chorus」プログラムに存在するバグの修正をオン/オフする等、7つの隠れた機能が表に現れます。

UAD-2 の Lexicon 224 エミュレーションは、世界中で愛用された本物の“スタジオクラシック”を最も徹底的に再現したプログラムです。



オリジナルの Lexicon 224 デジタルリバーブハードウェア

Lexicon 製品のすべての視覚と聴覚に関する参照は Harman International Industries, Inc より文書による許諾を得ています。

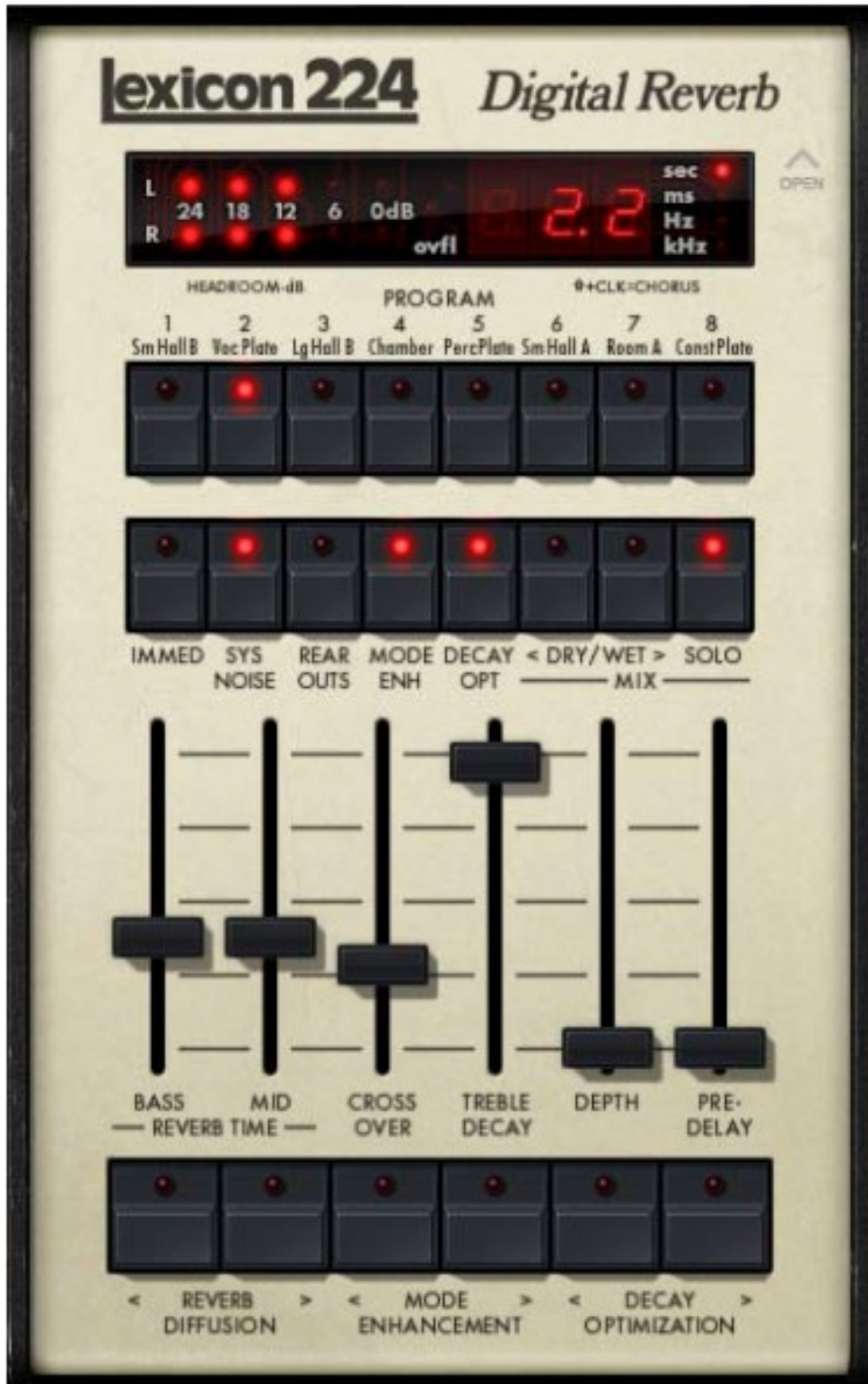


Figure 95. The Lexicon 224 プラグインウインドウ

オペレーションの概要

グラフィカルユーザーインターフェース

オリジナルの Lexicon 224 は 2 つのハードウェアから構成されています。「メインフレーム」ラックは、4U のシャーシーに電源、回路とオーディの入出力コネクターを備え、リモコンユニット 224 のパラメーターと各機能を表示し、コントロールを行うボタン、スライダーが備わっていました。これらのボタン、スライダーのいくつかは、二重、三重の機能があり、それら後ろに隠れている機能を使用する場合にはトリッキーな操作を必要とする場合もあります。

UAD Lexicon 224 インターフェースはオリジナルのハードウェアリモートコントロールの外観と機能性は似ています。しかし、実際の操作はプラグインで必要のないボタンに隠れている(プログラムのセーブ等の)「シフト」機能はアサインしなおすことで簡素化されました。追加パラメーターはパネルカバーを開くことで現れます。

Lexicon 224 プログラム

オリジナルの Lexicon 224 ハードウェアには、ユニットに内蔵されたファームウェア ROM によって定義される「プログラム」があります。Lexicon 224「プログラム」は独自の DSP アルゴリズムと Lexicon によってポインティングされたファクトリーパラメーターセッティングのイニシャルセットから成り立ちます。これらの初期値は「プリセット」と呼ばれます。

Lexicon ハードウェアの用語では、プログラムが「コール」(ロード)されることは DSP アルゴリズムを選択し、ファクトリーパラメーターの「推薦」する値がセットされることを意味します。次に、これらの設定をコントロールして変更を行い、後のリコールのためにユーザー「レジスター」に保存可能です。ユーザー「レジスター」が実行されないこと以外、プラグインは同じように動作します。代わりにユーザーセッティングはセッションファイルの中に保存されます。または、後のリコールのために(他の UAD プラグインと同様に)保存することもできます。

Lexicon 224 のバージョン 4.4 ファームウェアは(ユニットで使用可能な最大)9 つのプログラムを搭載しており、8 つのリバースプログラムと1 つのコーラスプログラムを有しています。[17 ページ](#)にて様々なプログラムについての記述を表記しているのでご参照ください。

Lexicon 224 アルゴリズム

アクティブなアルゴリズムは使用中のプログラムのサウンドキャラクターを決定します。異なったプログラムを選択することによってアルゴリズムを変更することができます。同一のプログラム中でアルゴリズムを変更することはできません。

Lexicon 224 v4.4 は 7 つのアルゴリズムを搭載しています。7 つすべてのアルゴリズムと 9 つのファクトリープログラムが UAD Lexicon 224 プラグインでモデリングされました。いくつかのプログラムが同じアルゴリズムを使用しているため、アルゴリズムの数より多くのプログラムが存在しています。詳細については [17 ページ](#)をご参照ください。

Lexicon 224 ボタン

オリジナルハードウェアと同様に UAD Lexicon 224 のボタンはモーメンタリースタイルで押し込んだ状態でラッチするタイプではありません。機能が特定のプログラム中で使用できない場合、クリックしてもボタンの LED は点灯しません。(increment/decrement ボタンの LED も点灯しません。)

「increment/decrement」ボタンをクリックした最初の数値は現在の値を示します。2 回目以降のクリックで値を変更していきます。この方法は現在の値を確認した後に設定を変更可能とします。

Tip: 「increment/decrement」ボタンは、ボタンを押し続けることによって連続的に値を変更することが可能です。

Lexicon 224 スライダー

主なリバーブのパラメーターを 6 つのスライダーでコントロールします。これはリバーブプログラムを手元で微調整できるとても便利なコントロールです。

P9 Chorus A では、最初の 4 つのスライダーはラベリングされたパラメーターをコントロールできません。このプログラムでのスライダーに関する詳細な情報は [18 ページ「P9 Chorus A」](#)を参照してください。

Tip: スライダー“キャップ”をクリックすると値は Numerical Display に表示されます。どのスライダーでもテキストラベルをクリックすると、そのスライダーは使用中のプログラムのデフォルト値に戻ります。

インプット&アウトプット

Lexicon 224 ハードウェアには 2 つのインプット(モノ/ステレオ)と 4 つの別々のアウトプットがあります。アウトプット A と C はメインステレオ出力の左/右チャンネルを使用するように設計されています。他の出力(B と D)はいくつかのプログラムで使用可能な 4 チャンネルリバーブの出力として使用します。

プログラムアルゴリズムで使用する場合、UAD Lexicon 224 は全 4 アウトプットの個々のサウンドを完全にモデリングしています。アウトプット B と D は[リアアウトコントロール\(12 ページ\)](#)から使用可能です。

注: Lexicon224 から出力されるドライビングナルは完全な未処理のシグナルです。

モノ/ステレオオペレーション

Lexicon 224 ハードウェアは、デュアルチャンネルインプット(左/右)を持つ完璧なステレオプロセッサーです。UAD Lexicon 224 プラグインがステレオイン/ステレオアウトの設定を使用している場合にはハードウェアと同様に左右のチャンネルが同時に処理されます。

モノイン/ステレオアウトの設定を使用する場合、ステレオプロセッサーの両方のチャンネルにモノラルシグナルを送ります。

モノイン/モノアウト(MIMO)の設定を使用する場合、アウトプット A は、プログラム 2, 4, 9 を除いて使用されます。アウトプット A と C は 1 つのモノフォニックシグナルとしてまとめられます。これはオリジナルのハードウェアマニュアルでも推奨されている使用方法です。リアアウトが MIMO モードで有効になっているならアウトプット B と D は A と C の代わりに使用することができます。各プログラムで使用するアウトプット設定のリストについては [19 ページの表 15](#)をご参照ください。

Primary & Hidden コントロール

使用頻度の高いコントロールは「リモートコントロール」パネルのインターフェースに配置されています。それ以外の追加コントロール(あまり使用されないパラメーター)は、隠れているコントロールパネルにて使用可能です。ディスプレイパネルの右にあるテキストラベル「OPEN」をクリックすることによって「Hidden Control Panel」(図 98)を開くことができます。

すべてのパラメーターに関する詳細については、[8 ページ](#)の「Primary Controls」、[「Hidden Controls」](#)に関しては [15 ページ](#)を参照してください。

パラメーターのレンジとデフォルト値

各パラメーターのレンジ、デフォルト値や使用可能な特定のパラメーターは動作中のプログラムによって異なります。パラメーターのレンジは個別のコントロールについての記述でリスト化されています。また各プログラムのデフォルトパラメーター値は、[19 ページ](#)の表 16 に記載されています。

注：極端なパラメーターセッティングは Lexicon 224 がセルフオシレーション(自己発振)を起こすか、予想外の音を出す可能性があります。この動作はオリジナルのハードウェアと同じです。

ディスプレイパネル

Lexicon 224 ディスプレイパネル(下の図 96)は、数値の表示、LED、ステレオレベルメーター、オーバードローインジケーターの 4 つのパートから成り立ちます。ここに表示されている情報は、エディットしているパラメーターやディスプレイホールドスイッチの状態に依存しています。(詳細は [16 ページ](#)をご参照ください。)



図 96. Lexicon 224 ディスプレイパネル

数値

エディット中に数値ディスプレイは 3 つのタイプのキャラクターで数値を表示します。ディスプレイホールドスイッチを「infinite」に設定していない場合、1.5 秒間エディットしたパラメーターを表示します。その場合、最後にエディットしたパラメーター値は表示され続けます。

ディスプレイホールドを 1.5(デフォルト)に設定した場合、値はエディット後の 1.5 秒間、関連するパラメーターも合わせて 1.5 秒間表示されます。この関係はオリジナルの Lexicon エンジニアによって設計された概算に基づいています。実際のディケイタイムは表示された値に合わない場合もあります。

バリュー LED

バリュー LED は特定のユニットのコントロールの数値を表示します。時間表示を行うパラメーターは、「sec(秒)」、か「ms(ミリ秒)」LED が点灯します。周波数の表示を行うパラメーターは、「Hz(ヘルツ)」、または「kHz(キロヘルツ)」LED が点灯します。どのユニットでも必要ない値の場合(例:ドライ/ウェット等)のパラメーターでは LED は点灯しません。

LED メーター

6 セグメントの LED メーターは、Lexicon 224 ADコンバーターの左右のシグナルインプット入力レベルを表示します。(AD コンバーターはモデリングされています)メーター LED は-24dB、-18dB、-12dB、-6dB、0dB でレベルを表示します。0dB の LED が点灯するとインプットクリッピングが起こります。

オーバーフロー LED

オーバーフロー LED は、計算上のプロセッサーオーバーフローがいつ起こったかを示します。リバーブのディケイタイムが長く、セルフオシレーションが起こりやすい状況で大きなシグナルがインプットされたときにオーバーフローが起こります。プロセッサーがオーバーフローを起こすと予期しないサウンドがなることがあります。

ハードウェアでのオーバーフローの挙動を完全にモデリングしています。プロセッサーオーバーフローが望ましくないサウンドを再生する場合、通常はインプットコントロールのレベルを下げるか、バス、ミドル、トレブルディケイのコントロール値を下げることによってオーバーフローを回避することができます。

プライマリーコントロール

プログラム

プログラムボタンは(下の図 97)、9つのデフォルト Lexicon プログラムのどれを選択するか決定します。そしてそれに関連するアルゴリズムがオンになります。Lexicon 224 プログラムの概要については、[4 ページ](#)をご参照ください。

8つのリバーブプログラムと1つのコーラスプログラムが使用可能です。リバーブプログラムボタン 1~8 をクリックしてプログラムを選択してください。コーラスプログラムを選択するにはどのプログラムボタンでもシフト+クリックを行うかまたは「CLK=CHORUS」テキストラベルをクリックします。コーラスモードを除いて、どのプログラムが動作中かをプログラムボタン LED が点灯して示します。



図 97. Lexicon 224 プログラムボタン

プログラムをロードする場合、同時に同じアルゴリズムをロードする場合は、オリジナルのデフォルト Lexicon ファクトリーセッティングが上書きして読み込まれます。(Immediate モードが有効の場合を除きます: 詳細については [11 ページ](#)をご参照ください)そして必要に応じてどのコントロールもプログラムセッティングを調整可能です。

プログラムに関する詳細については [17 ページの「各プログラムについて」](#)をご参照ください。

重要: Immediate モードがオフの時にプログラムを変更すると前に選択していたプログラムからの設定は消失してしまいます。カスタムプログラムを今後も使用するために保存する場合、UAD Toolbar がホストアプリケーションのプリセットマネージメント技術を使用して保存するようにしてください。

リバーブタイム

リバーブタイムは、リバーブサウンド(リバーブテール)のディケイの長さです。リバーブテールタイムはベース、ミッドと2つの周波数成分に分割されます。この2つのバンドの分離周波数は、クロスオーバーコントロールで設定します。

ベース

ベーススライダーは、クロスオーバー値よりも下の周波数のリバーブディケイタイムを設定します。高いベース値は、長いベースフリーゼンディケイタイムとなります。(クロスオーバー値が低すぎない場合)ベースリバーブディケイタイムの値は、秒単位でディスプレイに表示されます。設定可能な範囲は 06.秒から 70 秒です。

このコントロールは、クロスオーバーパラメーターと連動して機能します。パラメーターは、ベースコントロールで設定するベース周波数のレンジで設定されます。したがってクロスオーバーを非常に低い値に設定している場合、聞き取れるエフェクト音が少ないかもしれません。

ミッド

ミッドスライダーは、クロスオーバー値よりも上の周波数のリバーブディケイタイムを設定します。高いミッド値は、長いハイフリークエンシーディケイタイムとなります。(クロスオーバー値が高すぎない場合) ベースリバーブディケイタイムの値は、秒単位でディスプレイに表示されます。設定可能な範囲は 0.6 秒から 70 秒です。

ミッドはクロスオーバーパラメーターと連動して機能します。パラメーターは、ミッドコントロールで設定する高周波数のレンジで設定されます。したがってクロスオーバーを非常に高い値に設定している場合、聞き取れるエフェクト音が少ないかもしれません。

ミッドという名称は少し紛らわしく、このコントロールが実際に影響を与えるのはミッドレンジを超えたすべての周波数のリバーブディケイタイムです。しかしトレブルディケイコントロールでリバーブのハイ成分を調整できるので中域成分はフルレンジのリバーブテールよりも重要な役割を担います。

クロスオーバー

リバーブテールのバスとアップパー周波数帯を分けるクロスオーバー周波数(スプリットポイント)を設定します。高いクロスオーバー値は、ベースパラメーターコントロールに対して広い範囲の周波数帯を与えます。逆に下の値は、ミッドパラメーターコントロールに対して広い範囲の周波数帯を与えます。設定可能な範囲は 100Hz から 10.9kHz の間です。

クロスオーバーは、ベースとミッドのリバーブタイムパラメーターに関連して動作しているので、リバーブディケイに影響します。どちらもリバーブテール(各周波数帯あたり1つのコントロール)の長さを設定します。これらのパラメーターを、短いタイムに設定するとクロスオーバーを調整してもわかりづらくなります。

注: ベースとミッドを同じ値に設定した場合、クロスオーバーは影響を与えません。

トレブルディケイ

トレブルディケイは、ディケイが非常に高い部分の周波数を設定します。低い値は、高周波数成分が少なくなるので、暗めなリバーブを生み出します。トレブルディケイを低く設定した場合、調整したベース、ミッド及びクロスオーバーは、聞き取れる効果があまりありません。調整可能な範囲は 100Hz から 10.9kHz です。

Tip: トレブルディケイは、リバーブテールの高域成分量を調整しますが、ミッドは 100Hz ~ 10.9 kHz のタイムを調整します。

デプス

デプスは、リバーブとソースの間の見かけの距離の深さを設定します。それはエコーチェンバー内でのマイクのポジショニングに似ています。値が増えるのにしたがってソースからの距離が増えていきます。0 から 71 までの間で設定可能で、0 は近く、71 は遠くを意味しています。(数値は任意に設定可能)

注: デプスは P9 Chorus A では使用できません。このプログラムでは、デプススライダーを動かしても表示をアップデートしません。

ディフュージョン

ディフュージョンはリバーブでのエコー密度が時間経過につれどれくらい急速に増していくかを調整します。オリジナルのハードウェアでは、このパラメーターは「シフト-デプス」と呼ばれていました。(ディフュージョン値を変更する場合、デプス量を変更している間にシフトボタンを押している必要がありました)



ディフュージョン値を下げるには「<」ボタンをクリックし、上げるには「>」ボタンをクリックしてください。設定可能な値は、0-71 (数値は任意に設定可能)の間です。デフォルトの値はプログラムに依存します。19 ページの表 16 に各プログラムのデフォルト値を記しています。

注：ディフュージョンは P4 Acoustic Chamber では使用できません。

0 は最も薄い状態を意味し、ディフュージョン値が増えるにしたがって密度が増えていきますが、40 より高いディフュージョンの設定では、実際より濃くないように聞こえる場合があります。ディフュージョン値が 32-37 の間にある場合が最も濃い結果を得られます。

マテリアルが多く衝撃音を含んでいる場合、高いディフュージョン値は、望ましい結果をうみます。また、高いディフュージョン値は、スムーズに聞こえるリバーブにもよい効果をもたらします。低ディフュージョン値での早めのリバーブは「粒状」でまばらな感じがしますが、ストリングス、ホーン、ボーカルに合うクリアで明るいサウンドが得られます。また低ディフュージョン値もクラシックやミックスに奥行きを与える際に有効です。Lexicon 224 では、一般的に低周波数ではそれほどディフュージョンが得られないことに注意してください。

注：プログラムを変更する際、Immediate モードが有効な場合、ディフュージョン値は保持されます。

プリディレイ

プリディレイは、オーディオソースとリバーブの開始までの間に少し遅れを生じさせます。高いプリディレイ値はリバーブが始まる前の時間を増やします。使用しているプログラムによってこのパラメーターの範囲は異なります。下の表 14 (Table 14) に設定可能範囲を記しています。デフォルト値はプログラムに依存します。

Table 14. Lexicon 224 Predelay Ranges

| Program | Predelay Range | Program | Predelay Range |
|-------------------------|----------------|--|----------------|
| 1. Small Concert Hall B | 24 - 152 | 6. Small Concert Hall A | 24 - 152 |
| 2. Vocal Plate | 0 - 107 | 7. Room A | 24 - 255 |
| 3. Large Concert Hall B | 24 - 152 | 8. Constant Density Plate A | 5 - 185 |
| 4. Acoustic Chamber | 25 - 255 | 9. Chorus A | 0 - 253 |
| 5. Percussion Plate A | 0 - 107 | Note: Predelay values are in milliseconds. | |

イミディエイト



Immediate (“IMMED”)がオンになっている場合、新しいプログラムを選択しても現在のパラメーター値は維持されます。Immediate がオフの場合、プログラムが新しく選択されると、そのプログラムには、Lexicon デフォルトのファクトリープリセットパラメーター値が読み込まれコントロールスライダーはその設定時に動きます。

同じ「継続的な」パラメーター値を使用した様々なプログラムアルゴリズムを素早くオーディションしたい場合には「Immediate」モードをオンにした方が効果的です。無効にした場合、Lexicon ファクトリープリセットセッティング様々なプログラムを素早くオーディションする場合には効果的です。

デフォルトで Immediate はオンになっています。Immediate は以下のパラメーターに影響します。: ベース、ミッド、クロスオーバー、トレブルディケイ、デプス、プリディレイ、ディフュージョン、モードエンハンスメント、ピッチシフト、ディケイオプティマイゼーション、リアアウト

重要: Immediate はオフでプログラムを変更した場合、以前に変更したプログラム値は消失します。セッティングをセーブ、またはセッションファイルに保存されている場合にはリコールすることができます。

システムノイズ

UAD だけのこのコントロールは、オリジナルの Lexicon 224 ハードウェア固有のシステムノイズをモデリングした機能をオン/オフします。システムノイズをオフにするとよりモダンな(クリーンな)224 のサウンドを得られます。



ボタンをクリックして切り換えます。LED が点灯時はシステムノイズがオンになっています。デフォルトではオンです。

システムノイズの原理は、クオンタイゼーションエフェクト(A/D や D/A アルゴリズム内)、ジッパー/ステッピングノイズを含む、パラメーターを変更、変圧ディストーションや、フロアーノイズをモデリングしています。

システムノイズをオフにするとパラメーターを調整する際にジッパー/フロアステッピングノイズを減少させることができます。しかし、ディレイモジュレーションのジッパー/ステッピングノイズは減少させられませんが、完全に無くすことはできません。

注: システムノイズは、グローバルパラメーターです。異なったプログラムを選択しても状態は変わりません。

リアアウトプット

リアアウトプットコントロールはアウトプット B と D を使用するエフェクトアルゴリズムを使用する際に使用可能です。ハードウェアインプリメンテーションの概要については [5 ページの「インプット&アウトプット」](#) をご参照ください。



リアアウトノーツ

・リアアウトがオフの場合にはプラグインの左右アウトプットはそれぞれハードウェアの A と C から出力されます。リアアウトがオンの場合、B と D も出力として使用されます。

・アウトプット A と C はステレオでの使用を推奨します。(リアアウトは通常は使用しません)

・以下のプログラムでアウトプット A と C は B と D にそれぞれ同じです。: P2 Vocal Plate A、P5 Percussion Plate A、P8 Constant Density Plate A、P9 Chorus A。Consequently、リアアウトのコントロールはこのプログラムで左右のエフェクト音を出力します。

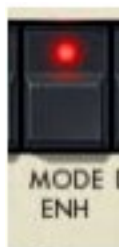
モードエンハンスメント

モードエンハンスメントは、Lexicon 224 プログラムサウンドがルームモードでリバーブテールが鳴りすぎるのを防ぎ、より自然なプログラムになるようにします。プログラムアルゴリズム内で特定のデレイライン(タック)を連続的にモジュレーションするように動作します。それはリバーブそのものを厚くすることなくエフェクトの密度を上げることが可能です。

モードエンハンスメントは工場出荷時に各プログラムに最適化されており、通常の使用では調整を必要としません。このような理由からオリジナルのハードウェアではこの機能にアクセスすることが難しくなっていました。しかし、パラメーターのクリエイティブな使用はプラグインでは奨励されるので、ソフトウェアでは簡単にアクセスできるように配置しました。

モードエンハンスメントには 3 つのコントロールがあります。:「Enable」、「Amount」、「Pitch Shift」
オリジナルのハードウェアのようにモードエンハンスメントアmountは低い値で、ピッチシフトは高い値にすると「ムーブメント」が増加し、目立つ音になります。

注: モードエンハンスメントの「Enable」がオンでない場合、モードエンハンスメントアmount、ピッチシフトコントロール共に効き目がありません。



モードエンハンスイネーブル

使用中のプログラムに対し、モードエンハンスメントをオン/オフを決定します。LED が点灯しているときエンハンスメントはオンです。すべてのプログラムでデフォルトではオンになります。

Tip: このコントロールは、オリジナルのハードウェアのようにアルゴリズムをリセットします。したがって同じプログラムのままで素早くリバーブテールを消すためにモードエンハンスメントを使用可能です。

モードエンハンスアマウント

2つのボタンによってモードエンハンスメントの量(アマウント)、または厳密な表現をするとディレイラインアップデートの間の時間をコントロールします。値を下げるには「<」ボタンをクリックし、上げるには「>」ボタンをクリックします。使用可能な範囲は「1~16」です。低い値は効果を強めます。



モードエンハンスピッチシフト



ピッチシフトはディレイラインアップデートステップのサイズをコントロールするモードエンハンスメントのセカンダリーパラメーターです。低い値は小さなステップとなり、高い値では大きいステップとなります。値を減少させるには「<」ボタンをクリックし増やすには「>」ボタンをクリックしてください。設定可能な範囲は 1~16 です。高い値になるほど効果を増大させます。

ピッチシフトコントロールは「Hidden」コントロールパネルでアクセス可能です。アクセスの詳細については [15 ページ](#) を参照してください。

ディケイオプティマイゼーション

インプットシグナルのレベルに対応してリバーブディフュージョンとカラーをダイナミックに減少させ、Lexicon 224 リバーブにクリアでナチュラルな雰囲気を加えます。しかし、高すぎる値はディケイを作ります。ディケイオプティマイゼーションは「Enable」と「Amount」の2つのコントロールがあります。

ディケイオプティマイゼーションは、工場出荷時に各プログラムに最適化されており、通常の使用では調整を必要としません。このような理由からオリジナルのハードウェアではこの機能にアクセスすることが難しくなっていました。しかし、パラメーターのクリエイティブな使用はプラグインでは奨励されるので、ソフトウェアでは簡単にアクセスできるように配置しました。

ディケイオプティマイズイネーブル

使用中のプログラムに対し、ディケイオプティマイゼーションのオン/オフを決定します。LED が点灯しているときはオンです。デフォルトの状態ではオンです。

注：ディケイオプティマイゼーションは、P8 Constant Density Plate A と P9 Chorus.Note では使用できません。



ディケイオプティマイズアマウント

ディケイオプティマイゼーションのアマウント(量)を設定します。値を減少させるには「<」ボタンをクリックし増やすには「>」ボタンをクリックしてください。設定可能な範囲は 1~16 です。低い値は、オリジナルのハードウェアのようにより目立つようになります。

注：ディケイオプティマイゼーションコントロールが動作していない場合、このコントロールも何も効果ありません。

ミックスコントロール



パラメーター「ドライ」、「ウェット」、「ソロ」は、プラグインのエフェクトミックスをコントロールします。これらのコントロールはハードウェアでは使用できません。

注：ミックスコントロールはグローバルパラメーターです。他のプログラムが選択されていても変わることはありません。

ソロ

ソロがオンになっているときは、ドライ/ウェットミックスは 100%ウェットを出力します。そしてドライ/ウェットコントロールは使用できなくなります。「クラシック」なリバーブセッティングで Lexicon 224 を使用する際にソロモードは最適です。(エフェクトグループでの使用/チャンネルセンドのバスとして使用される場合)チャンネルインサートで使用する場合にはソロはオフにしてください。デフォルトではオンです。

注：ソロはグローバル (Lexicon 224 全体) なコントロールです。

ドライ/ウェット

ソロモードがオフになっている場合、この 2 つのボタンでリバーブプロセッサとソースシグナルのバランスをコントロールします。ドライボタンをクリックするとドライ率が高まりリバーブが減少し、ウェットボタンをクリックするとリバーブ率が高まりドライ率を減少させます。

ドライ/ウェットミックスは割合としてディスプレイに表示されます。50 では、ドライとウェットが等しい値です。50 以上ではウェットが濃くなり、50 以下ではドライが濃くなります。

ドライボタンを一度クリックすると値は 1%下がります。ウェットボタンをクリックすると値は 1%増加します。このコントロールを調節する際、より詳細な値で調節する場合、コンピューターの「シフト」キーを押しながらコントロールすると 0.1%ごとのコントロールが可能です。

通常、Lexicon 224 をチャンネルインサートに使用した場合にドライ/ウェットコントロールを使用します。グループ/バスでセンド/リターン構成で使用する場合、100%ウェットの設定にするか、ソロモードをオンにしてください。

Hidden コントロール

さらなる UAD コントロールは、「hidden コントロールパネル」で使用可能です。詳細については下の図 98 をご参照ください。



図 98 Lexicon 224 Hidden コントロール

アクセス

「hidden」コントロールは、ディスプレイパネル右のテキスト「Open」をクリックすると開きます。逆に開いているパネルは「Close」をクリックするとパネルが閉じます。

注：新しいインスタンスを使用するとき、パネルの開閉については最後に使用した状態を引き継ぎます。



ピッチシフト

ピッチシフトは、モードエンハンスメントの一つの要素です。パラメーターの詳細に関しては [13 ページ「モードエンハンスピッチシフト」](#)をご参照ください。

インプットゲイン

独立している左(L)と右(R)のインプットゲインパラメーターは、プラグインへのインプットシグナルレベルをコントロールします。デフォルト値は 0dB です。使用可能な ± 12 dB です。モノイン/モノアウトで使用している場合、右チャンネルのコントロールは使用不可能です。

インプットレベルが増えるにしたがってデバイスのアナログ、デジタルのレスポンスはノンリニアになっていきます。シグナルが高すぎる場合、A/D インプット、またはプロセッサがオーバーロードを起こし、オーバーフロー LED が点灯し、望まないサウンドを再生する場合があります。詳細については [7 ページの「オーバーフロー LED」](#)をご参照ください。

Tip: テキストラベル(インプットゲイン)をクリックすると両方のチャンネルの値を 0 にすることが可能です。

アウトプットレベル

独立している左(L)と右(R)のアウトプットレベルパラメーターのプラグインからのアウトプットレベルをコントロールします。デフォルトでは 0dB で、使用可能な範囲は $-\infty$ dB から +12dB の間です。モノイン/モノアウトで使用する場合、右チャンネルは使用不可能になります。

Tip: テキストラベル(アウトプットレベル)をクリックすると両方のチャンネルの値を 0 にすることが可能です。

リンク



リンク/アンリンクは、インプットゲインとアウトプットレベルの左右チャンネルコントロールをリンク(同時にコントロール)アンリンク(別々にコントロール)するかを設定します。LED が点灯時はリンクされており、消灯時はアンリンクです。リンク LED をクリックすると切り換え可能です。デフォルトではオンです。

リンクがオフの場合、左右のコントロールに差がある状態になることもあり、リンクをオンにすると左チャンネルの値を右チャンネルにコピーします。

リンクがオンの状態でオートメーションを書き込んだ場合、左チャンネルのみに書きこまれます。左チャンネルのオートメーションはリンクモード時には両方のチャンネルのコントロールを行います。

注:リンクがオンのときにコントロールサーフェスや、コントロール専用モードで使用中に右チャンネルパラメーターに変化を加えても効き目はありません。

バグフィックス

オリジナルの Lexicon 224 のコードは、Hall B と Chorus アルゴリズムにプログラミングエラーが存在します。これらのコンピューターコードのバグは必要の無いベースディケイタイムを起こす場合があります。(Hall B)、また特定のソースやパラメーターセッティングで右チャンネルにポップ音等が起こる場合があります。(Chorus)



このバグはプラグインの UAD インプリメンテーションで修正しましたが、完璧なエミュレーションのために元のコードを使用するオプションも用意しています。

UA ロゴがスイッチになります。UA ロゴが点灯している状態ではソースコードバグが修正されています。デフォルトではオンです。バグフィックスを無効にし、オリジナルの状態を使用する場合、UA ロゴをクリックしてください。

ディスプレイホールド

数字ディスプレイの表示方法を変更します。オリジナルのハードウェアでは、修正したパラメーターの値は 1.5 秒間表示した後にアベレージの表示に戻ります。



ホールドスイッチはこの表示方法を変更することができます。「∞」に設定すると変更したパラメーター値を表示し続けます。「∞」に設定し、プログラムを変更した場合、パラメーターを変更するまでアベレージディケイタイムを表示します。

注:新しい Lexicon 224 を立ち上げるとディスプレイホールドのパラメーターは最後の設定を再現します。

パワー

パワースイッチはバイパスコントロールです。スイッチをクリックすることでパワーの状態を変更してください。バイパスにするとプラグインプロセッシングは無効となります。そしてディスプレイパネルとすべての LED ボタンは薄暗くなります。



各プログラムについて

P1 Small Concert Hall B

適度な初期密度と適度に不均等なディケイからなる小さなコンサートホールの反響をシミュレートしています。1.5～5秒のリバーブタイムに最適化されています。(それ以上に長いディケイタイムには「P3 Large Concert Hall B」を使用してください)バス、ミッドが比較的近いセッティングの場合に最も自然なサウンドが得られます。このプログラムは「P3 Large Concert Hall B」と同じアルゴリズムを使用しています。

P2 Vocal Plate

ボーカル用に最適化されたプレートリバーブのエミュレーションです。初期密度が低く、クリアでブライトなりバーブを得られます。「P5 Percussion Plate A」と全く同じアルゴリズムを使用していますが、わずかに異なる固有のディフュージョンを得られます。

P3 Large Concert Hall B

低い密度と着色のないリバーブで大きなコンサートホールをエミュレートされ、長いリバーブタイムに最適化されています。パーカッシブなサウンドでディフュージョン値を上げてご使用になることをお勧めします。このプログラムは「P1 Small Concert Hall B」と同じアルゴリズムを使用しています。

P4 Acoustic Chamber

チャンバーのように聴こえますが、それよりも少ない初期密度になっています。2～4秒程度の短めのリバーブタイムで最高の音になるような傾向があります。[デプス](#)の値を0にするとチャンバーのようなリバーブになります。ディフュージョンはこのプログラムでは調整できません。他の Lexicon 224 プログラムと違い、このアルゴリズムにはモノインプットがあります。

P5 Percussion Plate A

パーカッシブなサウンドに最適化したプレートリバーブです。高い初期密度と鮮やかなカラーがあり、短めのリバーブタイムで最高のサウンドが得られます。このプログラムは「P2 Vocal Plate」と同じアルゴリズムを使用していますが、異なったディフュージョンに特色があります。

P6 Small Concert Hall A

「P1 Small Concert Hall B」と同様ですが、全体的にブライトで[トレブルディケイ](#)コントロールはおとなしめです。オリジナルのハードウェアマニュアルでは、200Hz未満のリバーブリターンに対し3dB程度のイコライジングを加えることによって「リバーブが豊かになり自然な雰囲気演出する」ことを推奨しています。

P7 Room A

「Program 7」は、高めの初期密度とおとなしめなカラーリング穏やかなルームシミュレーションです。スピーチをはじめ、多くのジャンルの音楽に最適な素晴らしいリバーブです。ステレオインプットのソースで使った場合、特にワイドなサウンドを提供します。

P8 Constant Density Plate A

自然に発生するリバーブで、新しい反射(リフレクション)が絶え間なくディケイサウンドに加えられます。この音はリバーブテールでの密度とカラーの増加によって形成されます。「P8 Constant Density Plate A」は、「プレート」タイプのサウンドのような高い初期密度とカラーがありますが、密度は時間経過と共に増加せず、一定のまま残ります。これによりリバーブテールの中にわずかに「シューツ」という音を足すことができ、これによってリバーブに対する別のクリエイティブなオプションを得られます。このプログラムでは、[ディケイオプティマイゼーション](#)と本当のステレオ入力を使用できません。(インプットはステレオイン/ステレオアウトのセッティングでもモノラルインプットに統合されます)

P9 Chorus A

「Chorus A」プログラムは、各ステレオチャンネルに4ボイスの合計8ボイスのコーラスです。各ボイスは厚く、豊かなサウンドで、ランダムにそして独立して変化するタイムディレイを備えています。

コーラスがアクティブな時、最初の4つのスライダーのそれぞれは、ボイスのステレオペアのゲインレベルをコントロールします。スライダーはログフェーダーではなく、リニアフェーダーであり、全4つのフェーダーのデフォルトポジションは、最大値よりも6dB低いゲインに相当します。

最初の2ボイスペアにはオーバーラップするディレイレンジがあります。それらのゲインを同じレベルに設定することでフェイズ/フランジングエフェクト効果を得られます。

また、左右のチャンネルがモノイン/モノアウト設定のように一緒にミックスされた場合にも(モノ、またはセンターインプットで)フェイズやフランジング効果を得られます。

このプログラムでは[ディフュージョンコントロール](#)はアクティブになります。ディフュージョンは、ステレオボイスの3番目と4番目のペアに作用しますが、シェイプがディフュージョンコントロールで決定するタイトなスペースのエコーのクラスターを作ります。Lexicon 224は、コーラスボイスにディフュージョンを持つ、いくつかの機材の一つです。この特徴は独特なキャラクターの主な要因です。

注:バス、ミッド、クロスオーバー、トレブルディケイはこのプログラムでは使用できません。その代わりにスライダーのそれぞれによってステレオボイスペアのレベルをコントロールします。

MIMO プログラムアウトプット

Lexicon 224 がモノイン/モノアウト(MIMO)で使用される場合、プラグインで使用できるハードウェアアウトプットは、下記の表 15 にリスト化しています。これらのソフトウェアの割り当てはオリジナルハードウェアのマニュアルのガイドラインにしたがっており、変更できません。

表 15.モノアウトで使用できる Lexicon224 のアウトプット

| Program | Output(s) | Program | Output(s) |
|-------------------------|-----------|-----------------------------|-----------|
| 1. Small Concert Hall B | A | 6. Small Concert Hall A | A |
| 2. Vocal Plate | A + C | 7. Room A | A |
| 3. Large Concert Hall B | A | 8. Constant Density Plate A | A |
| 4. Acoustic Chamber | A + C | 9. Chorus A | A + C |
| 5. Percussion Plate A | A + C | | |

デフォルトのパラメーター値

表 16 は、プログラムごとに使用可能なパラメーターのデフォルト値を示します。

表 16.Lexicon224 デフォルトパラメーター値

| Program | Bass | Mid | Crossover | Treble Decay | Depth | Diffusion | Pre-delay | Enhance | Pitch Shift | Decay Opt. |
|-----------------------------|------|-----|-----------|--------------|-------|-----------|-----------|---------|-------------|------------|
| 1. Small Concert Hall B | 3.0 | 2.0 | 540Hz | 4.40 | 23 | 21 | 024 | 02 | 01 | 05 |
| 2. Vocal Plate | 2.2 | 2.2 | 1kHz | 10.9 | 00 | 04 | 000 | 02 | 01 | 05 |
| 3. Large Concert Hall B | 3.4 | 2.6 | 540Hz | 4.00 | 21 | 01 | 024 | 02 | 01 | 05 |
| 4. Acoustic Chamber | 2.8 | 2.2 | 1kHz | 6.60 | 00 | N/A | 025 | 02 | 01 | 05 |
| 5. Percussion Plate A | 2.2 | 2.2 | 1kHz | 10.9 | 00 | 37 | 000 | 02 | 01 | 05 |
| 6. Small Concert Hall A | 3.0 | 2.0 | 540Hz | 6.60 | 23 | 28 | 024 | 02 | 01 | 05 |
| 7. Room A | 1.8 | 1.8 | 540Hz | 4.40 | 23 | 24 | 024 | 02 | 02 | 05 |
| 8. Constant Density Plate A | 1.8 | 1.8 | 540Hz | 10.9 | 23 | 37 | 005 | 07 | 01 | N/A |
| 9. Chorus A | N/A | N/A | N/A | N/A | N/A | 22 | 012 | 02 | 02 | N/A |

レイテンシー

Lexicon 224は、サウンドのクオリティを上げるために内部リサンプリングを行っています。これにより他のUADプラグインよりわずかに大きなレイテンシーが発生する場合があります。詳細については、「アップ・サンプリングしたプラグインを補正する」を参照して下さい。